PART2　インターネットとコミュニケーション

目標

- 誹謗中傷等の被害にあったとき，どのような行動を取れるか理解する。
- インターネットにおける匿名性のメリットとデメリットを説明できるようになる。
- インターネット上での自分の立ち位置を確認できるようになる。

Chapter1　ネットコミュニケーションの特徴

匿名性のメリット・デメリット

- **メリット**

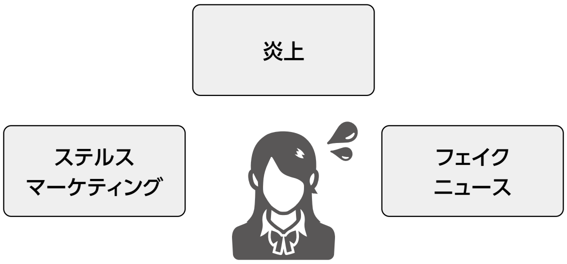
・〔①　　　　　〕にとらわれない自由な表現がしやすくなる。

　→素直に，自分の気持ちを出しやすくなる。

　→年齢・社会的地位とも無関係になれる。

・〔②　　　　　〕の告発が容易。

- **デメリット**



〔③　　　　　　　　　　　　　　〕：相手に広告だと気づかれないように商品を宣伝したり，商品に関するクチコミを発信したりする行為。

　広大なインターネットにおいて，私たちは自分と同じ思想・考えの人間と結びついたコミュニティを形成しがちである。この現象を，複数の集団が別々に形成されるという意味で〔④　　　　　　　　　　　　　　　　〕という。感情的な意見が目立ったり，偽情報・誤情報が急速に広まったりする背景には，この集団極性化（サイバーカスケード）の影響がある。

知っておこう

炎上:SNS などへの投稿に対し，批判的なコメントが集中すること。
フェイクニュース：主に SNS などで発信・拡散される，真実ではない情報。

記録性

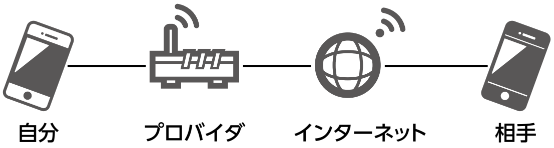
インターネット上の通信には，〔⑤　　　　　　　　〕が残る。

〔⑥　　　　　　　　〕：インターネット上でサービスを提供している個人や会社。（例．掲示板管理人やインターネット接続業者など）

〔⑦　　　　　　　　〕：インターネットに接続する端末に割り振られる，住所のような番号。

ここが POINT

プロバイダや IP アドレスについては，別の講で詳しく扱う。通常，プロバイダはインターネット接続業者を示すが，ここではプロバイダ責任制限法の定義に基づいている。




```
192.xxx.xxx.xxx-[05/01/2022:15:13:30
+0900]” GET /img/sampleA.jpg HTTP/1.1”
192.xxx.xxx.xxx-[05/01/2022:15:17:40
+0900]” GET /img/sample2.jpg HTTP/1.1”
```

インターネット上の通信にはログが残る

「いじめ」や「中傷」,「犯罪行為」などの書き込みに対して，被害者は発信者（加害者）情報の〔⑧　　　　　　　〕や〔⑨　　　　　　〕をプロバイダに対して行うことができる。通常は秘密にされるログ（記録）の内容も，条件を満たせば，法手続きにのっとって，相手方に開示される。

知っておこう

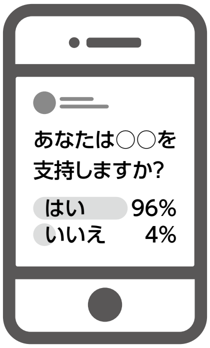
2002 年，プロバイダの損害賠償責任を制限することで，被害者・加害者への対処をしやすくする法律として，「プロバイダ責任制限法（正式名称：特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律)」が施行された。

まとめ

- インターネット上のコミュニケーションにおける**匿名性**は，立場にとらわれない自由な表現等が可能である反面，フェイクニュースや誹謗中傷，炎上を助長させるデメリットも持ち合わせている。
- 広大なインターネット上で，我々は自分自身が**集団極性化（サイバーカスケード）**に陥っている可能性を自覚する必要がある。
- インターネット上の通信には**ログ**が残る。適切な法手続きの下で，ログを開示させ，発信者を特定する手がかりにすることができる。

Chapter2　実践問題

問 1　あなたの SNS 上で見かけた，次のアンケート調査に潜む危険を考えてみよう。



問 2　インターネットの特徴を調べるため，次の問題に取り組んでみよう。

(1)　複数の検索エンジンで，同じ検索ワードを入力して検索し，結果に違いがあるか調べてみよう。

(2)　個人アカウントでログインしているサービスからログアウトし，表示されるコンテンツが変化するか調べてみよう。

＜MEMO＞

第2講　PART2　確認問題

問 1　インターネットの匿名性のメリットとしては（　ア　）にとらわれない自由な表現ができること，また（　イ　）の告発が容易であることが挙げられる。

(1)　空欄（ア）に入る語句として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選びなさい。

①　立場　　②　不正
③　プロバイダ　　④　メディア

(2)　空欄（イ）に入る語句として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選びなさい。

①　立場　　②　不正
③　プロバイダ　　④　メディア

問 2　インターネットにおいて，自分と同じ思想・考えの人間と結びついたコミュニティが形成される現象を何というか。次の①～④のうちから一つ選びなさい。

①　アーキテクチャ
②　集団極性化（サイバーカスケード）
③　ステルスマーケティング
④　マルウェア

問３　プロバイダに対しては，「いじめ」や「中傷」，「犯罪行為」などの書き込みに対して，（　ア　）を行って発信者（加害者）情報の提供を求めたり，該当の書き込みの（　イ　）を行ったりすることができる。

(1)　空欄（ア）に入る語句として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選びなさい。

①　開示請求　　②　刑事告訴
③　削除依頼　　④　著作権放棄

(2)　空欄（イ）に入る語句として最も適切なものを，次の①～④のうちから一つ選びなさい。

①　開示請求　　②　刑事告訴
③　削除依頼　　④　著作権放棄

第２講　メディアとコミュニケーション

PART1　コミュニケーション手段の変化と影響

問１　誰でも発信できるから。誰でも容易に拡散できるから。など

問２　(1)　みんなの関心ごとであり，自分たちの不安を解消してくれる，信じたい情報だから。

(2)　ほかの人が勉強しなくなれば自分は得をする。

(3)　学校の先生に直接聞いてみる。他の集団に属する友達,先輩等に聞いてみる。など

PART2　インターネットとコミュニケーション

問１　SNSで行われるアンケートは自分に近しい傾向を持ったフォロワーが対象になりやすく，世間の傾向とは必ずしも一致するものではないという危険性がある。

問２　(1)　省略　　(2)　省略

第2講 PART2　確認問題　解答

問 1

(1) ①

解説：

立場にとらわれない自由な表現ができることは，インターネットの匿名性のメリットである。

(2) ②

解説：

不正の告発が容易であることは，インターネットの匿名性のメリットである。

問 2　②

解説：

インターネットにおいて，自分と同じ思想・考えの人間と結びついたコミュニティが形成される現象を集団極性化（サイバーカスケード）という。感情的な意見が目立ったり，偽情報・誤情報が急速に広まったりする背景には，この集団極性化（サイバーカスケード）の影響がある。

問 3

(1) ①

解説：

プロバイダに対して情報の開示請求を行うことができる。

(2) ③

解説：

プロバイダに対して書き込み等の削除依頼を行うことができる。